

## パラオ海溝陸側斜面にみられる深海石灰岩体

○坪井辰哉（静岡大学）、和田秀樹（静岡大学）、中村俊夫（名古屋大学）、  
松崎浩之（東京大学）、大辻奈穂（新潟大学）、藤岡換太郎・小栗一将・北里 洋（海洋研究開発機構）

1993年のしんかい6500潜航の際に、パラオ海溝陸側斜面の水深6500mの深海に巨大な石灰岩体の存在を確認した。水深6500mの深海に石灰岩が見つかることは極めて稀である。なぜならば、石灰岩はこれほどの深海では溶けてなくなってしまうからである。1995年には、この石灰岩体についての詳細な調査を行い、石灰岩の表面から海水よりも高密度の物質がもやもやと立ち昇る現象を確認した。この現象は、深海で石灰岩の溶解が進行していることの証拠であると思われる。これまで、深海での石灰岩の溶解現象は考えられてきたが、溶解の現場での研究例はほとんどない。本発表では、2006年のしんかい6500潜航の際に採取した石灰岩とその直上海水についての研究成果を報告する。

### <議論のテーマ>

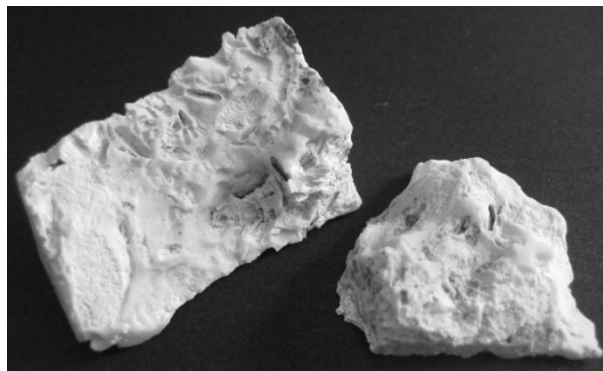
- ・石灰岩体の形成年代
- ・直上海水の放射性炭素同位体比
- ・石灰岩の溶解フラックス



1993年に発見した石灰岩体



直上海水の採取



採取した石灰岩